

県内企業の経営課題を解決するため研究テーマを発表する学生ら
 神戸新聞社（撮影・辰巳直之）



中小企業の経営課題探る

13大学が研究Mラボ中間発表会

……NEXTに動画

兵庫県内の中小企業が抱える経営課題を大学のゼミ単位で調査研究する「課題解決ラボ」の中間発表会が8日、神戸市中央区の神戸新聞社で開かれた。学生ら240人が参加し、学生の視点を取り入れた販売戦略など研究テーマを発表した。成果は10月25日の最終発表会で披露する。

課題解決ラボは、県内の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラボ」（神戸新聞社など主催）の中核事業で、昨年からは、今年で2回目。10社と県内外13大学20チームが参加している。学生たちは6月から企業訪問や経営者との意見交換を通して、研究テーマを探ってきた。発表会では、パン製造販売のドンク（神戸

市東灘区）と組む、流通科学大総合政策学部の田中康仁准教授のゼミは「アパレル企業とのコラボで、20代の若者に顧客を拡大する」と報告。ドンクからは「一過性で終わらない提案をしてほしい」と要望が上がった。同大3年の岩崎隼平さん（20）は「学外で企業と組んで研究するのは初めて。難しいがやりがいがある」と話していた。
 （塩津あかね）